

令和3年度 山形歯科専門学校 学校評価書

※ 評価得点欄の値は、校内評価委員会及び同会事務局の全教職員計13名の評価得点を平均したものである。なお、各自の評価得点は次の基準による。

＜適切－4点、ほぼ適切－3点、やや不適切－2点、不適切－1点＞

また、得点の文字色は次の通りである。

青(3.8~4.0)－「良い」、黒(3.5~3.7)－「まあまあ良い」、ピンク(3.0~3.4)－「要注意」、赤(2.9以下)－「改善必要」

	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員 の指導及び助言 (書面回答による)	次年度の改善点
		評価 得点	成果と課題 (「学校自己評価報告書」の略記・抜粋)		
1 教育 理念 ・ 目 標	A 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。	3.9	<p>[主な取組 並びに 成果]</p> <p>① 「職業実践専門課程」(文部科学大臣認定)3年目。協力施設との緊密な連携のもと充実した臨地・臨床実習を実施。(A・B・C・E)</p> <p>② コロナ禍中の教育活動等について、教育課程編成委員会(年2回)で多方面から協議・検討して学校運営に反映(A・B・C・E)。</p> <p>③ 学校HPの適時更新、県歯科医師会「やまがた歯科衛生士お役立ち情報」コーナーとのリンクによる各種学校情報の随時公開。(D)</p> <p>④ 緊急連絡システムへの保護者参入による情報共有等の充実。(D)</p> <p>[今後の課題]</p> <p>① コロナ禍中における学修活動のさらなる充実。(A・B・C・E)</p> <p>② 学校の理念や特色、運営方針や体制、さらに修学支援制度等に対する保護者の理解の深化を図る各種方策を検討。(D)</p> <p>③ 緊急連絡システムや学校HPのより有効な使用法の検討。(D)</p>	○ 教育課程編成委員会がカリキュラムをマネジメントする上でしっかり機能している印象がある。	<p>1 コロナ渦中における校内外の学修諸活動について、より実効の上がる内容・方法等を検討し、実施する。</p> <p>2 学校の理念や特色、運営方針や体制、各種修学支援制度等について、保護者の理解浸透を図る。</p> <p>3 緊急連絡システムや学校HPの効果的活用法等についてさらに検討を加える。</p>
	B 学校における職業教育の特色は何か。	3.9			
	C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	3.8			
	D 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	3.2			
	E 学科の教育目標、育成人材像は、学科に対応する業界にニーズに向けて方向づけられているか。	3.7			
2 学 校 運 営	A 目標等に沿った運営方針が策定されているか。	3.8	<p>[主な取組 並びに 成果]</p> <p>① 教員運営委員会による、学校の運営方法や施設設備の整備、職員の業務改善等に向けた総括的な検討。(A・B・C)</p> <p>② 県内情勢を踏まえた本校BCP〈行動指針〉の更新、県歯科医師会や実習協力施設等との連携・情報共有の体制強化。(C・F)</p>	○ コロナ禍中の学校運営において、学生の健康や安全を確保しつつ、知識もしっかり修得できる工夫が為されている様子が大きいとかがえる。	<p>1 コロナ禍中の学校運営の基本として、オンライン授業やWeb会議、対面・Web併用ハイブリッド方式等、目的や状況に応じて柔軟に対応する。</p>
	B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	3.8			

	C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	3. 7	③ オンライン授業やWeb会議の運営体制の向上。(F・H)	○ 学生の意識調査結果では、各項目とも肯定的評価の度合いが高まっている。特に入学して良かったと評価する学生が極めて多いことが、学びの達成を示すものとして注目される。	2 感染症に係る危機管理対策も含め学校運営についての方策検討の基本となる校内諸会議の充実を図る。
	D 人事、給与に関する規程等は整備されているか。	3. 0	④ 学校図書室運営検討委員会による検討を反映させた学習センター機能の充実による学生の利用拡大。(A・B・C)		3 データ処理や学生管理等校務処理に係るIT化を推進して業務の効率化を図り、教職員の負担軽減等に繋げていく。
	E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	3. 2	⑤ 学校HPの更新と専用ブログやインスタグラムの活用による学校情報の公開や広報の充実。(G)	○ コロナ禍中の厳しい環境において、学生の学修活動やコミュニケーションの面でも評価が向上している点は、学校運営が適切であったと評価できる。 今後コロナ禍の状況が続いたとしても、充実した教育活動が持続できるよう、工夫や見直しが行われることを期待する。	
	F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	3. 7	[今後の課題]		
	G 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3. 9	① 感染症に係る危機管理の対策検討等も含め、学校運営の基本となる校内会議の定期開催の履行。(A・B・C・D)		
	H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	2. 9	② データ処理や学生管理等に係るIT化を推進し、教職員の業務の負担軽減と平準化を実現。(H)		
			③ 教職員の業務や勤務体制の改善や調整の検討。(C・D)		
3 教育活動	A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	3. 9	[主な取組 並びに 成果]	○ 昨年秋に、3年生の庄内地方への研修旅行ができたことは、学校運営上の成果と言える。 コロナ禍により思うように学修活動や行事等が行えない状況であろうが、今後も学校生活3年間で貴重な時間となるよう配慮して欲しい。	1 臨地実習の内容・方法等を再編・検討するとともに、臨床実習協力施設の再募集と指導内容の精選を行う。
	B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3. 8	① 臨床実習指導者会議や同指導歯科衛生士会議のWeb開催化による出席者の増大と指導方法等の情報共有。(D・E・F・H)	○ 2年連続したコロナ禍の環境の中であったもの、学生たちの達成感や成就感の向上が見られたことは評価できる。	2 コロナ禍中における実施可能な学校間連携事業の内容を検討し、活動再開に向けた学校間の調整を行う。
	C カリキュラムは体系的に編成されているか。	3. 9	② コロナ禍により臨地実習の実施は限定的となるも、内容の充実とともに成就感等の獲得に結実。(B・D・E・F)	○ コロナ禍中であっても、教職員研修の実効あるものにしていくことは大切である。Web講演会等をもつ	3 コロナ禍中における「学び」の充実に向け、各種の講義や実技指導にかかる動画教材等の蓄積を図り、感染状況の変化に対応する。
	D キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫や開発などが実施されているか。	3. 7	③ オンラインによる米国の大学教授の特別講演会を実施。米国・東京・本校を直接結ぶ貴重な体験授業。(C・D・E・F)		
	E 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成や見直し等が行われているか。	3. 5	④ 外部講師の特別授業を複数回実施。各専門分野の先端的な知識や技術等を学習による意欲向上。(C・D・E・F)		
			⑤ 3年「テーマ研究」の発表内容の向上、公共施設を使用した発表会の充実、講師間及び校内専任担当者との連携の強化。(D・H)		
			⑥ 授業評価の中間期アンケート調査実施による意欲向上。(G・L)		
			[今後の課題]		

	F 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	3. 7	① コロナ禍中における「学び」の充実に向けた講義や実技指導にかかる動画教材等の蓄積とデータベース化。（B・D・J） ② 臨地実習の内容・方法等の再編検討、臨床実習協力施設の再募集の実施と指導内容の精選。（A・B・C・E・F） ③ コロナ禍中における実施可能な学校間連携事業の内容検討と活動再開に向けた調整。（A・B・C・E・F） ④ 中長期的な学校運営の見通しに基づく教務職員の人材確保、業務の効率化や平準化等による働き方の改善検討。（K・L） ⑤ 教職員の指導力向上に向けた校内外の各種研修の充実。（M・N）	と活用するべきである。 ○ 3年「テーマ研究発表会」は各班とも甲乙付けがたい高水準の発表となり、充実していた。 ○ 同「テーマ研究発表会」は興味深く、活動として大変有意義であった。質疑応答の場をさらに工夫して欲しい。	
	G 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3. 9			
	H 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	3. 7			
	I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	3. 9			
	J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3. 9			
	K 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	3. 3			
	L 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。	3. 1			
	M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3. 1			
	N 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3. 0			
4 学 修 成 果	A 就職率の向上が図られているか。	3. 9	[主な取組 並びに 成果] ① 新型コロナウイルス感染症の感染防御を徹底し、国家試験全員合格の目標達成に向けた取り組み。（A・B） ② 個別面談の積み重ねとともに、面接練習の実施による就職支援の充実。（A）	○ コロナ禍中であっても、学生各々が目的を見失わず、日々学修を積み重ねていることが伺える。	1 同窓生の業績や活躍等を在籍学生に環流し、目的意識の高揚を図る。また、昨年度に引き続き、卒業後1年にわたり適宜事後指導の機会を設け、就業後の充実
	B 資格取得率の向上が図られているか。	3. 9			

	C 退学率の低減が図られているか。	3. 5	<p>③ 今年度より開始した卒後1年の同窓生に対する定期連絡等は、早期離職防止や就業の達成感獲得に効果。(D・E)</p> <p>④ 再就職支援事業Web研修会に参加者多数で大きな反響。(D・E)</p> <p>[今後の課題]</p> <p>① 実社会で活躍する同窓生による特別講義等の企画・実施。(B・C)</p> <p>② 3年間を見通した国家試験対策の検討、特に1・2年時における段階を捉えた指導方法の工夫。(B)</p> <p>③ 学生の個別面談や保護者・家族面談、また学校カウンセリング等による学校と家庭の密接な連携の構築。(C)</p> <p>④ 在宅の有資格者への復職支援の取り組みに対する協力、それに係る関係団体との連携の強化。(D)</p>		と早期離職の防止を図る。		
	D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3. 2			2 3年間を見通した国家試験対策の詳細な指導方法を検討し、各学年における習熟度に応じた指導の具体策を策定する。		
	E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか。	3. 2			3 コロナ禍中の学校生活を充実させるために、個別面談・保護者面談、学校カウンセリング等を通じ、学生や家庭との意思疎通を重視していく。		
5 学 生 支 援	A 進路や就職に関する支援体制は整備されているか。	3. 9	<p>[主な取組 並びに 成果]</p> <p>① 各担任による学生との個別面談や保護者面談、進路選択・決定機における教務主任面談・面接練習等による支援体制の強化。(A・G)</p> <p>② 学校カウンセラーによる教育相談活動の充実。(B)</p> <p>③ 本校修学支援制度「特待生制度」の拡充策として「奨励生」枠を増設(各学年5名)。(C)</p> <p>④ 昨年度機関確認の「高等教育の修学支援新制度」(文部科学省)による幅広い支援とともに年度途中の特別給付の受領等、多数の学生への大きな経済援助は極めて有益。(C・I)</p> <p>⑤ 「専門実践教育訓練給付制度」(厚生労働省)の対象者の増大と当該事務の順調な遂行。(C・I)</p> <p>⑥ コロナ禍中であったが、各高校の協力により1年生の出身校(母校)訪問を実施。(A・B・J)</p> <p>[今後の課題]</p> <p>① 本校修学支援制度「特待生制度細則」の改正による「奨励生」枠の常設。(C)</p>	○ コロナ禍中における心身のケアについて、引き続き教職員との面談やスクールカウンセラーの活用など工夫して欲しい。	1 本校修学支援制度「特待生制度細則」を改正し「奨励生」枠を常設することで、学生の修学意欲向上や入学希望者の増大に繋げる。		
	B 学生相談に関する体制は整備されているか。	4. 0					2 「高等教育の修学支援新制度」、「専門実践教育訓練給付制度」の活用を充実させ、各学生の学業と生活の安定化を図り、自己実現を支援する。
	C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	3. 9					3 校内外の経済支援制度に係る広報を工夫し、趣旨や制度内容の浸透を図る。
	D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3. 5					
	E 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	3. 2					
	F 学生の生活環境への支援は行われているか。	3. 2					

	H 保護者と適切に連携しているか。	3. 3	② 「高等教育の修学支援新制度」の円滑な運用。(C・I)		
	I 卒業生への支援体制はあるか。	3. 7	③ 「専門学校教育訓練給付制度」の対象者の増員。(C・I)		
	J 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3. 7	④ 校内外の経済支援制度等に係る広報の充実。(C・I)		
	K 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	3. 7			
6 教育環境	A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3. 4	[主な取組 並びに 成果]	○ 2年続きのコロナ禍における学校運営には教育環境の上で様々な制限や困難が多かったことと思われるが、各分野とも概ね良好な結果を得ているとの報告書の内容であり、評価できる。 ○ コロナ禍の環境は今後も継続すると思われ、引き続き様々な工夫と努力が必要である。	1 旧型の校内施設設備の整備を順次実施する。特に実習用歯科ユニットの大幅改修の実施計画を具体化する。 2 機種更新をした学生用パソコンの利用方法を多方面に検討し、有効活用を図る。 3 定期的な校内設備点検を実施し、順次必要箇所の整備を行う。
	B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	2. 6	① 春季休業期間に1・2年生普通教室の拡張工事を実施。机間の間隔確保等の基本的な感染予防体制の整備。(A)		
	C 防災に対する体制は整備されているか。	3. 5	② 上記①同様、大規模なトイレ改修工事を実施。(A)		
			③ 学校図書室の学習環境整備による利用促進。(A)		
			④ 学生用ノートパソコンの機種更新やWi-Fi環境の整備により、情報関連科目とともに多様な用途に使用できる環境に改善。(A)		
			⑤ 緊急連絡システムへの保護者の参入による危機管理の確度向上と用途の幅の拡大。(A・C)		
			[今後の課題]		
			① 旧型の校内施設設備の整備。特に実習用歯科ユニットの大幅改修と教室の机・椅子の更新。(A)		
			② 定期的な校内設備点検の実施と計画的な整備の実行。(A)		
7 学生の受	A 学生募集活動は適正に行われているか。	3. 8	[主な取組 並びに 成果]		1 入学者選抜の日程・方法を改善し、入学希望者の増大に結びつける。 2 オープンキャンパスの回
	B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3. 8	① オープンキャンパスは夏季Web開催、冬季対面開催。各々特色を有効活用。(A)		
			② 高校進学ガイダンスや個別学校訪問等、可能な限りの対面での広		

入 れ 募 集			報を実施。(A・B)		数や内容・方法等を見直すとともに、男子や社会人経験者の入学に効果的な広報を検討する。
	C 学納金は妥当なものとなっているか。	3. 9	③ 学校HP、専用ブログ・Instagramの適時の更新。(A・B) ④ 本校独自の修学支援制度、「高等教育の修学支援新制度」、「専門実践教育訓練給付金制度」等経済支援体制の広報。(A・B) ⑤ 「山形花笠祭り」団体参加、「防災講話」や「登院式」の実施等に係る各種報道機関の取材による広報の充実。(A・B)		
			[今後の課題] ① 入学者選抜の日程・方法等の改善検討。(A・B) ② オープンキャンパスの回数や内容・方法の改善検討。(A・B) ③ 男子や社会人経験者の入学に効果的な広報の検討。(A・B) ④ 学校HP、専用ブログ・Instagramの他、SNS上の各種広報手段を検討。(B)		
8 財 務	A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	3. 3	[主な取組 並びに 成果] ① 予算の執行と適切な財務管理。(B・C・D)		1 「高等教育の修学支援新制度」や「専門実践教育訓練給付制度」の適切な運用、本校修学支援制度の拡充により、入学者の安定的確保をめざす。 2 日常的な経費節減を心がけ、より安定的な経営環境を構築する。 3 中長期的な学校経営計画の策定とともに、施設設備の改善整備、物品更新、不具合箇所修繕等を順次行う。
	B 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか。	3. 5	② 各種経済支援制度並びにコロナ禍における国・県の支援事業等に対する円滑な事務処理。(B) ③ 財務状況の学校HP上の公開。(D)		
	C 財務について会計監査が適正に行われているか。	3. 8	[今後の課題]		
	D 財務情報の公開の体制整備はできているか。	3. 8	① 「専門実践教育訓練給付制度」(厚生労働省)や「高等教育の修学支援新制度」(文部科学省)等の有効活用による入学者の確保。(A) ② 定員を充足しつつ、日常的な経費節減に努めることによる安定的な経営の継続。(A・B) ③ 本校独自の修学支援制度の改善検討。(A・B) ④ 中長期的な学校経営計画の策定とともに、施設設備の改善整備、物品更新、不具合箇所修繕等の確実な執行。(A)		

9 法令等の遵守	A 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3. 8	<p>[主な取組 並びに 成果]</p> <p>① 教育課程編成委員会並びに学校図書室運営検討委員会は年2回の開催、学校関係者評価委員会はコロナ禍により第2回会議が書面会議。各委員会とも企業等委員等の外部有識者を委嘱。(A・C)</p> <p>② 学校評価事業6年目、学校運営の改善や工夫に効果。主な事業内容を学校HP上に公開。(A・C・D)</p> <p>③ 文部科学省が示すガイドラインに従った情報公開(学校HP上)を実施。(A・C)</p> <p>④ 本校「個人情報保護方針」の学校HP上での公開。(B)</p> <p>[今後の課題]</p> <p>① 保護者等への学校情報公開の充実。(D)</p> <p>② SNS、スマートフォン使用時の情報管理に係る専門家による指導の実施。(B)</p>	<p>○ 学校評価に係る情報公開についての周知は少しずつ浸透の度合は上がってきているが、さらに学生や保護者に理解を拡げていく必要がある。</p> <p>○ 学校評価を継続するにあたり、毎年課題が焦点化していることは良い。</p>	<p>1 コロナ禍中の学校運営等について、企業等委員や外部有識者より指導助言を受け、適正な運営をめざす。</p> <p>2 学校評価等を含めて各種学校情報の公開を推進し、学校運営の適正化と客観化を図る。</p> <p>3 SNS、スマートフォン使用時の情報管理等について、専門家による指導を実施する。</p>
	B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3. 9			
	C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	3. 8			
	D 自己評価結果を公開しているか。	3. 8			
10 社会貢献・地域貢献	A 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3. 3	<p>[主な取組 並びに 成果]</p> <p>① 「山形花笠祭り」への体表団体参加、全校生参加による大きな行事。保護者の観覧等もあり大きな達成感の獲得。(A・B)</p> <p>② 学校周辺の地域清掃ボランティアを年2回実施。(B)</p> <p>[今後の課題]</p> <p>① 第3学年「テーマ研究」発表会のウェブ公開の推進。(A)</p> <p>② 県内郡市地区歯科医師会との連携による地域貢献活動、歯科保健活動の推進。(A・C)</p> <p>③ 「歯科専祭」(学校祭)の内容等改善。(A)</p> <p>④ Webを活用した地域発信の検討。(A・B)</p>	<p>○ 学生自治会による校外清掃ボランティア活動の継続に否定的な傾向の学生が9.5ポイントいるという調査結果はやや残念である。年3回の実施により町内が綺麗になり、感謝している。</p> <p>○ アフターコロナも見据えつつ、地域貢献の内容や方法等について検討していくことが大切である。</p>	<p>1 第3学年「テーマ研究」発表会をWeb上で公開し、外部発信を推進する。</p> <p>2 郡市地区歯科医師会との連携による地域貢献活動、歯科保健活動への参加を推進する。</p> <p>3 コロナ渦中における「歯科専祭」(学校祭)の実施について、内容・方法等を改善検討する。</p>
	B 学生のボランティア活動を奨励や支援をしているか。	3. 1			
	C 地域に対する公開講座や教育訓練(公共職業訓練等含)の受託等を積極的に実施しているか。	3. 3			